

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成24年度農作物病虫害発生予察情報について

平成24年度農作物病虫害発生予報第5号を発表したので送付します。

平成24年度農作物病虫害発生予報第5号

平成24年7月17日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では, 穂いもちの発生圃場率が55.0%, 発病度が4.3であり, 平年(21.5%, 1.1)と比べてやや高めの発生である。
- (2) 7月13日発表の1ヶ月予報では, 期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが, その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温, 降水量と日照時間はともに平年並と予想されており, 発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 穂いもちの発生が多い圃場では, 使用基準を確認の上, 液剤による薬剤防除を出穂直前までに行なう。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期には, 発生圃場率が5.3%, 発病度が0.4%)。
- (2) 水稻の生育は平年並である。
- (3) 7月13日発表の1ヶ月予報では, 期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが, その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温, 降水量と日照時間はともに平年並と予想されており, 発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し, 基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前防除を追加して, 上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 7月前半の巡回調査では,発生圃場率が90.0%で,平年(52.1%)と比べてやや高めの発生であるが,株当たり虫数は0.16頭で,平年(0.19頭)並の発生である。

(2) 7月13日発表の1ヶ月予報では,期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが,その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温,降水量と日照時間はともに平年並と予想されており,発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し,基幹防除を励行する。特に,苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では,適期防除に努める。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 予察灯での飛来調査では,誘殺を確認していない。

(2) 7月前半の巡回調査では,発生を認めていない(平年同時期には,発生圃場率が0.9%,株当たり虫数が0.00頭)。

(3) 7月13日発表の1ヶ月予報では,期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが,その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温,降水量と日照時間はともに平年並と予想されており,発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し,基幹防除を励行する。特に,苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では,適期防除に努める。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 7月前半の巡回調査では,発生を認めていない(平年同時期には,発生圃場率が11.1%,被害株率が0.8%)。

(2) 7月13日発表の1ヶ月予報では,期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが,その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温,降水量と日照時間はともに平年並と予想されており,発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除が遅れると幼虫による葉の食害がすすむので,今後の発生に十分注意し適期防除に努める。

斑点米カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 7月前半の水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では,20地点のうち11地点で生息を確認した。捕獲地点率は55.0%,1地点当たりの捕獲虫数は7.5頭で,ほぼ平年(48.9%,6.8頭)並の発生である。

(2) 7月13日発表の1ヶ月予報では,期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが,その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温,降水量と日照時間はともに平年並と予想されており,発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を,水稻出穂の10~15日前までに除去・処分する(但し,

出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行なわない。

- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行なう。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行なう。

普通期水稲

いもち病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、葉いもちの発生圃場率が40.6%、発病度が4.0であり、平年(27.8%、2.3)と比べてやや高めの発生である。
- (2) 7月13日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが、その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温、降水量と日照時間はともに平年並と予想されており、発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 苗箱処理剤にいもち病対象薬剤を用いていない圃場においていもち病の発生を認めた場合は、速やかに薬剤防除を行なう。また、その後も病勢の進展が見られるようであれば追加防除を行なう。
- (2) 葉いもちの発生が多い圃場では、薬剤の登録内容を確認の上、粒剤は出穂10日前までに、液剤は出穂直前までに防除を行なう。また、出穂後曇雨天が続いた場合には穂揃期にも防除を行なうとともに、穂肥の施用量は控えめとする。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が3.2%、発病株率が0.3%であり、平年(16.0%、2.9%)と比べてやや低めの発生である。
- (2) 7月13日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが、その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温、降水量と日照時間はともに平年並と予想されており、発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前防除を追加して、上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率は81.3%で、平年(51.4%)と比べてやや高めの発生であるが、株当たり虫数は0.19頭で、ほぼ平年(0.29頭)並の発生である。
- (2) 7月13日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが、その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温、降水量と日照時間はともに平年並と予想されており、発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、適期防除に努める。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 予察灯での飛来調査では、誘殺を確認していない。
- (2) 7月前半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期には、発生圃場率が0.3%、株当たり虫数が0.00頭)。
- (3) 7月13日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが、その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温、降水量と日照時間はともに平年並と予想されており、発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、適期防除に努める。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、30地点のうち24地点で生息を確認した。捕獲地点率は80.0%で、平年(57.1%)と比べてやや高めの発生であるが、1地点当たりの捕獲虫数は6.5頭で、ほぼ平年(9.3頭)並の発生である。
- (2) 7月13日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが、その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温、降水量と日照時間はともに平年並と予想されており、発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10~15日前までに除去・処分する(但し、**出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行なわない**)。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行なう。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行なう。

サツマイモ

食葉性害虫(ハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウ等)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では, 食葉性害虫による被害発生圃場率が87.5%, 被害度が10.3であり, ほぼ平年(84.3%, 6.3)並の発生である。
- (2) 6～7月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査4圃場の平均)は, ハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウともに平年より少なく推移している。
- (3) 7月13日発表の1ヶ月予報では, 期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが, その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温, 降水量と日照時間はともに平年並と予想されており, 発生に中間的な気象条件である。

[フェロモントラップ誘殺数]

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2012年	2011年	2010年	2009年	平年	2012年	2011年	2010年	2009年	平年
6.3	16	94	16	31	34	13	39	6	9	16
6.4	16	48	79	28	39	31	91	12	22	21
6.5	20	44	85	63	43	17	82	8	20	17
6.6	14	36	41	84	59	14	87	18	13	22
7.1	16	56	41	70	53	10	37	24	37	31
7.2	16	37	98	44	53	5	88	39	71	61
7.3		38	90	38	54		291	62	42	97

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので, 若齢幼虫時に徹底防除を図る。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月後半の巡回調査では, 発生圃場率が87.5%, 寄生葉率が5.6%であり, 平年(29.5%, 2.3%)と比べてやや高めの発生である。
- (2) 7月13日発表の1ヶ月予報では, 期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが, その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温, 降水量と日照時間はともに平年並と予想されており, 発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には, 充分な量の薬液を散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

II. 果樹

カンキツ

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並～やや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では, 発生圃場率は18.8%, 寄生葉率は1.7%で, 平年(59.8%, 7.5%)と比べてやや低めの発生である。
- (2) 7月13日発表の1ヶ月予報では, 期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが, その後は平

年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温、降水量と日照時間はともに平年並と予想されており、発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。
- (2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避ける。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率は44.4%, 発病葉率は7.9%で、平年(19.6%, 2.5%)と比べてやや高めの発生である。
- (2) 7月13日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが、その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温、降水量と日照時間はともに平年並と予想されており、発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料の過用を避ける。
- (2) 落葉した罹病葉は適切に処分する。
- (3) 病斑が進展し葉の表面が菌叢で覆われると、薬液が弾かれ防除効果が劣ってくるので、薬剤散布にあたっては、展着剤を加用する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が55.6%, 寄生葉率が1.7%, 被害果率が0%であり、平年(63.7%, 5.9%, 1.7%)と比べてやや低めの発生である。
- (2) 7月13日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが、その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温、降水量と日照時間はともに平年並と予想されており、発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。葉表より葉裏への寄生が多いので、散布むらのないように丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期には、発生圃場率が9.2%, 寄生新梢率が0.3%)。
- (2) 7月13日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが、その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温、降水量と日照時間はともに平年並と予想されており、発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)7月前半の巡回調査では、発生圃場率が55.6%、寄生葉率が5.1%であり、ほぼ平年(37.6%、4.3%)並の発生である。
- (2)7月13日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多いが、その後は平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温、降水量と日照時間はともに平年並と予想されており、発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は大半が葉裏に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

予報内容の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/boujyosyo/>

- 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。